



2025.10.26 第4回脱炭素おおいそ町民会議



ブルーカーボンについて



その基本的な考え方と
県内の取組み事例

脱炭素おおいそ町民会議 実行委員会

委員長 松浦 治美

委員 加藤 洋

神奈川県環境農政局脱炭素戦略本部室

グループリーダー 松田 泰弘

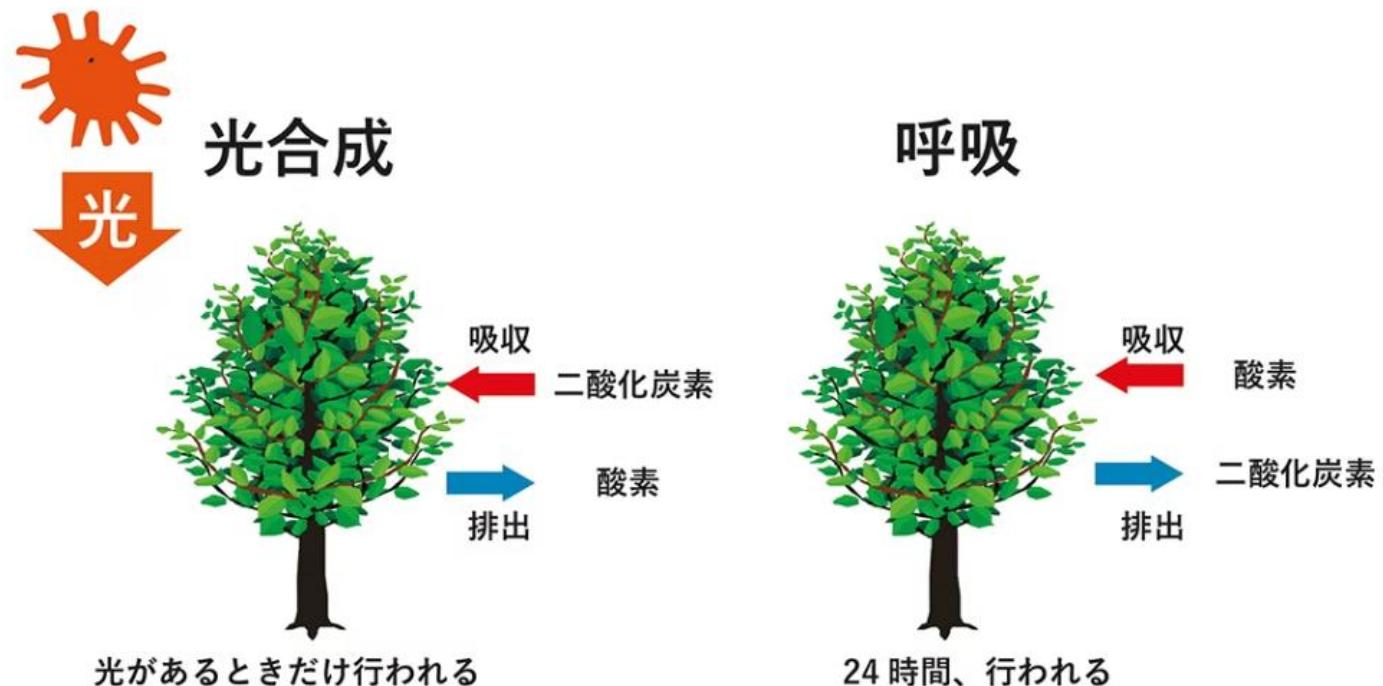




植物がCO₂を吸収するしくみを知ろう！



- 樹木の葉は、大気から吸収した二酸化炭素 (CO₂) と土壤から吸収した水 (H₂O) を用い、光合成によりブドウ糖 (C₆H₁₂O₆) などの炭水化物を作り、酸素 (O₂) を発生する。
- 樹木は、光合成によってできた炭水化物をもとに、幹・根・枝葉を作つて、樹体を大きくしていく。
(→ CO₂の固定)
- 葉は光合成と同時に呼吸もしており、酸素を吸って二酸化炭素CO₂を放出。光合成量が呼吸量を上回った分が吸収量になる。



出典：一般社団法人日本自然環境保全協会





ブルーカーボンとは？



- 海藻や海草が光合成によりCO₂を取り込み、その後、海底や深海に蓄積される炭素のことをブルーカーボンという。
- 海藻や海草は、CO₂吸収源としてだけでなく、水質浄化、水産資源の活性化、レジャーの場の提供など、豊かな海、豊かな生活につながる機能あり。



なぜ「ブルー」なの？

- 海藻や海草がCO₂を取り込むと青くなる訳ではない。
- 陸上の森林や植生が吸收、固定する炭素（グリーンカーボン）と区別するため、ブルーカーボンと名付けられた。
(2009年のUNEP報告書)





吸收源としてのブルーカーボンの特徴



- 2009年のUNEP報告書
 - ブルーカーボン生態系：マングローブ林、塩性湿地、海草藻場
 - 面積や総現存量はわずかだが、炭素貯留量は非常に大きい。
 - 「地球上で最も効果的な炭素吸収源」
- ブルーカーボンは、酸素が少ない水中にあるため、分解しにくい。
- 日本のブルーカーボンにとっては、海藻藻場が重要 ➔ しかし評価が難しい！



海草と海藻

- 海草とは、海中で花を咲かせ種子によって繁殖し、海中で一生を過ごすアマモなどの海産種子植物のこと。比較的浅いところに多く、海底深くに生育することはない。
- 海藻とは、コンブなどの海で生活する藻類のことで、胞子によって繁殖する。海藻の根は栄養吸収のためではなく、岩に固着するためのもの。（水産庁HP「藻場の働きと現状」）



我が国のブルーカーボン吸収量



- 我が国のブルーカーボンとしては、海藻藻場が重要
- IPCCガイドラインでは、マングローブ、潮汐湿地、海草藻場の3生態系における排出・吸収量の算定方法論が示されているが、海藻藻場については示されていない。
- 2022年度の推計において、世界で初めて、ブルーカーボン生態系の一つである海草藻場及び海藻藻場における吸収量を合わせて算定し、合計約35万トンの値を国連に報告。
- 2023年度は約34万トン



森林等からの吸収量・
約5,020万トンのうち

※ IPCC : 気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate Change) の略。人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988年に国連環境計画 (UNEP) と世界気象機関 (WMO) により設立された組織。





「地球温暖化対策計画」におけるブルーカーボン



- ブルーカーボン生態系による温室効果ガスの吸収・固定量の算定方法については、一部を除き確立していないものもあることから、これらの算定方法を確立し、我が国の温室効果ガス排出・吸収目録（インベントリ）への反映を進め、国際的なルール形成を主導。
- 沿岸域における藻場・干潟の保全・再生・創出と地域資源の利活用の好循環を生み出すことを目的とした「令和の里海づくり」モデル事業などの里海づくりの取組や「命を育むみんなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」等を通じて、効果的な藻場・干潟の保全・再生・創出を推進。
- 吸収源としての期待が大きい沖合のブルーカーボンについては、海藻を生産・育成することで、温室効果ガスを吸収し、深海に貯留・固定し、吸収量として算定・評価する取組の可能性の検討を、バイオ資源としての利用も図りつつ進める。



出典：環境省発表資料

<https://www.env.go.jp/content/000310278.pdf>





県内のブルーカーボンの取組み事例



マリーナの桟橋下に
早熟カジメを設置し、
藻場再生に挑戦

リビエラシーボニアマリーナ（三浦市）の取組



海草の大切さを実感
してもらうために、小・
中・高校生を対象に
「コアマモ植え付け体
験会」を開催

横須賀市の取組





大磯でブルーカーボンが可能か？



- ・大磯の海岸では、昭和40年代ころまでは、台風の後などには、海岸に大量の海藻、海草が打ち上げられ、臭くて大変な状況
→かつては豊かな藻場があったと推測
- ・しかし、昭和60年代に、照ヶ崎海岸沖に潜ったところ、「藻場はほとんどなかった」との報告。
- ・照ヶ崎海岸等、岩場の海岸には、元々藻場があったので、ブルーカーボンの取組により、藻場再生の可能性があると考えられる。
- ・大磯の海岸は、遠浅ではなく、すぐに深くなっているので、横須賀市のようなアマモの植え付けはできないが、リビエラのように、岸壁や桟橋から早熟カジメを発芽させたロープを垂らして、カジメを育成する海底に海藻等が着生しやすい材質、形状のブロックを設置し、藻場を再生する等の方法は考えられる。





藻場再生の取組み事例



藻場造成ブロックを沈める



3年半後の様子

提供：株式会社ガイアート





藻場の役割



- 海の生き物たちの餌や隠れ家、産卵場所
- 水中の有機物を分解し、栄養塩類や炭酸ガスを吸収し、酸素を供給するなど海水の浄化機能
- そして、ブルーカーボン
- しかし、高度成長期の沿岸域の開発などによって、沿岸域の藻場は大幅に減少
- 瀬戸内海では30年間で7割ものアマモ場が減少（水産庁HP「藻場の働きと現状」）

提供：株式会社ガイアート

かながわ ブルーカーボンシンポジウム

～藻場の保全・再生活動とブルーカーボンクレジットの取組～



シンポジウム 13:30 ▶ 16:30
受付開始 13:00
交流会 16:45 ▶ 18:45

会 場

藤沢商工会館ミナパーク 502会議室
神奈川県藤沢市藤沢607-1 藤沢商工会館
オンライン同時開催 <https://zoom.us/j/91386217740>



講演01
神奈川県のブルーカーボンクレジット事業
及び藻場保全・再生活動事例
小田原藻場再生活動組織 代表
野瀬晃治氏

講演02
神奈川県内におけるブルーカーボンク
レジット取得事例
三和漁業協同組合 城ヶ島支所 支所長
石橋英樹氏
みうら漁業協同組合 諸職支所
ヨント管理主任 本間功一氏
平塚市漁業協同組合 総務主任
伏黒哲司氏
横須賀市経済部農水産業振興課
総務・水産振興担当 関口洋資氏

◆募集人数
・会場 50名、オンライン 300名
・原則として神奈川県内のブルーカーボンに关心のある漁業団体、企
業、教育・研究機関、NPO等団体、省庁・自治体の関係者等

◆参加費
・シンポジウム 無料
・交 流 会 会費制

◆申込方法
・会場参加は右のQRコードより申し込みください



QRコード
申込みフォーム

◆募集期間
・令和7年10月16日(木)14時～11月19日(水)17時
・応募者多数の場合は抽選とさせていただきます
・当選者のみへのご連絡とさせていただきます

◆主催
神奈川県環境農政局脱炭素戦略本部室
◆事務局(連絡先)
株式会社東京久栄 技術本部
TEL(048)268-1600【山岸・神尾】
E-mail:blue_carbon2025@tc.kyuei.co.jp

かながわ ブルーカーボンシンポジウム

～藻場の保全・再生活動とブルーカーボンクレジットの取組～

藻場の保全・再生技術、神奈川県が進めるブルーカーボンクレジット事業の取組、漁業団体等の藻場の保全・再生活動の事例を情報共有し、必要な情報を得てもらうとともに、漁業団体、企業、自治体のニーズ、シーズを共有し相互支援(マッチング)の機会を提供します。

日 時： 2025年11月27日(木)

シンポジウム 13:30～16:30

交 流 会 16:45～18:45

会 場： シンポジウム 藤沢商工会館ミナパーク 502会議室 <https://reserva.be/minapark/about>

神奈川県藤沢市藤沢607-1 藤沢商工会館

オンライン同時開催 <https://zoom.us/j/91386217740>

交 流 会 藤沢商工会館ミナパーク 303会議室

主 催： 神奈川県 環境農政局 脱炭素戦略本部室

事務局： 株式会社東京久栄 技術本部

(連絡先) TEL：(048) 268-1600【山岸・神尾】

E-mail:blue_carbon2025@tc.kyuei.co.jp



参加申し込みフォーム

プログラム

13:30 1. 開催挨拶 神奈川県 環境農政局 脱炭素戦略本部室

13:35 2. 基調講演 藻場の保全・再生

藤田 大介氏
日本海藻協会 会長
公益社団法人全国豊かな海づくり推進協議会技術参与 ほか
元東京海洋大学 学術研究院 准教授

14:10 3. 講 演 神奈川県のブルーカーボンクレジット事業及び藻場保全・再生活動事例

神奈川県 環境農政局 脱炭素戦略本部室

野瀬晃治氏
小田原藻場再生活動組織 代表
本間功一氏
みうら漁業協同組合 諸職支所 ヨント管理主任

伏黒哲司氏
平塚市漁業協同組合 総務主任
神尾光一郎氏【進行】
株式会社東京久栄 カーボンニュートラル戦略室 ブルーエコノミー推進グループ
シニアマネージャー (ジャパンブルーエコノミー推進研究会 幹事)

15:05 休 憩 (15分程度)

15:20 3. 講 演 神奈川県内におけるブルーカーボンクレジット取得事例

石橋英樹氏
三和漁業協同組合 城ヶ島支所 支所長
関口洋資氏
横須賀市 経済部 農水産業振興課 総務・水産振興担当

15:50 4. 意見交換

16:28 5. 閉会挨拶 神奈川県 環境農政局 脱炭素戦略本部室

16:45 6. 交 流 会 303会議室





参考資料



- ・光合成と温暖化防止（森林・林業學習館）
https://www.shinrin-ringyou.com/shinrin_seitai/kougousei_ii.php
- ・環境省のブルーカーボンのページ
<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/blue-carbon-jp/about.html>
- ・「ブルーカーボンとは何か—温暖化を防ぐ「海の森」」（枝廣淳子著、岩波ブックレット）
- ・県内の事例1：「よこすか海の市民会議×横須賀市 海の森をつくろう
コアマモ植え付け体験会」視察報告
<https://www.ntv.co.jp/bluecarbon/topics/34579bgjn4y4qga3zs42.html>
- ・県内の事例2：葉山町／葉山アマモ協議会の取り組み
—漁業者、ダイバー、学校、研究者が守る地元の藻場
<https://bluecarbon.jp/initiatives/001388.html>
- ・県内の事例3：一般社団法人ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所の藻場再生の取組
https://www.riviera.co.jp/wp-content/uploads/2025/05/news_20231211.pdf

